

VMware 製品 × 日立のストレージ

サーバ管理者の負担を軽くするプラグイン登場

サーバ管理者にとって、ストレージ管理はなじみが薄く、難しく感じるものです。

日立は、VMware 製品と日立のストレージとの親和性をますます強化。サーバ管理者のために気軽に日立のストレージの状態を確認いただけるプラグインを開発しました。

ユーザー企業 のミッション

- ・ビジネスのスピードアップに貢献できるよう、仮想環境を活用して効率化せよ。
- ・サーバ・ストレージ管理者間で連携し、社内のインフラを適切な状態に維持せよ。

サーバ側でもストレージの ボリューム情報を確認

対象プラグイン

- ・ Hitachi Storage Adapter for VMware vCenter
- ・ Hitachi Storage Management Pack for VMware vRealize Operations

これまで、サーバ管理者からはどのストレージとつながっているのかなど詳細が見えにくく、ストレージ管理者と会話しにくいということがあります。プラグインを導入すると、仮想マシンとストレージのマッピング（ボリューム情報）が VMware 製品の管理コンソールで確認可能に。互いに意思疎通がしやすくなり、ストレージに関する作業がスムーズになります。

サーバ側でもストレージの ヘルス情報を確認

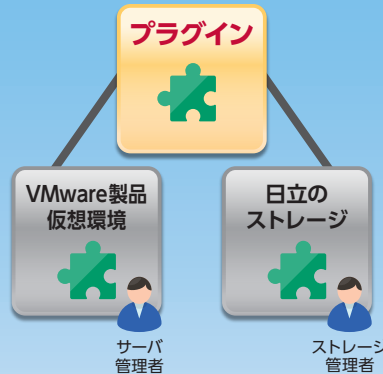
対象プラグイン

- ・ Hitachi Storage Adapter for VMware vCenter
- ・ Hitachi Storage Management Pack for VMware vRealize Operations

仮想マシンでエラーを検知した際、どこに原因があるのかを速やかに突き止める必要がありますが、ストレージのことはストレージ管理者に確認しなくてはなりません。プラグインを導入すると、ストレージのヘルス情報（ボリューム、LUパス、DP プールなどの使用状況）が VMware 製品の管理コンソールで参照可能に。ストレージも含め問題の発生箇所や影響範囲を確認できるので、障害対応が速くなります。

LU : Logical Unit
DP プール : Dynamic Provisioning プール

一人でできる、
相手とわかりあえる



サーバ側だけで 負担なく仮想マシンの 作成を完遂

対象プラグイン

Hitachi Storage Adapter for VMware vCenter

仮想マシンを作成するまでには、サーバ側だけでなく、ストレージ側でもさまざまな操作が必要であり、多くの人の手間と時間がかかる作業でした。プラグインでは、サーバ管理者だけで仮想マシン作成を完遂することのできる機能を搭載。ストレージ側の作業も含め、データストア作成までの4つの作業を1つにまとめ自動化しました。サーバ管理者が好きなときに仮想マシンを作成でき、しかも時間も短縮できるので、両方の管理者の負担が大きく軽減されます。

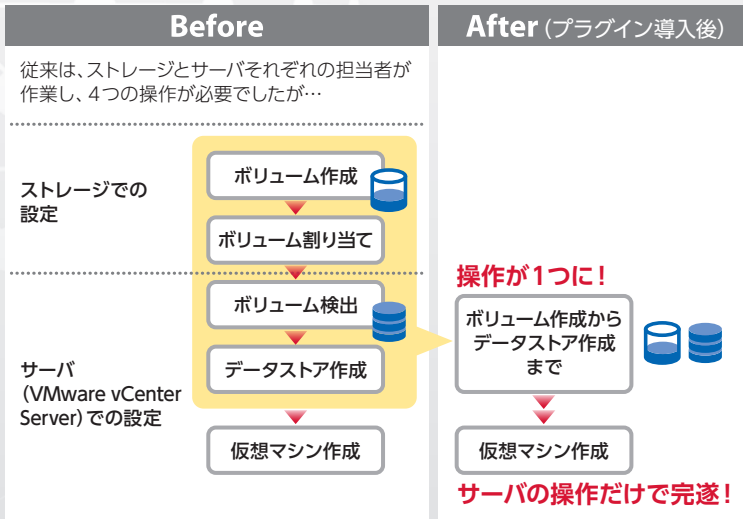
サーバ側でも ストレージの性能監視、 性能分析

対象プラグイン

Hitachi Storage Management Pack for VMware vRealize Operations

仮想環境全体が快適に動作しているかを監視し、障害を未然に防ぐことは、サーバ管理者の大切な役目です。プラグインを導入すると、仮想マシンに関連付けられているストレージのキャパシティ監視が可能になるほか、VMware vRealize Operations の機能と連携して、仮想マシンの性能の推移とストレージの関係性を詳細に分析することができるようになります。

プラグインを利用した仮想マシンの作成をご紹介します。



プラグインと VVOL、どっちを使う?

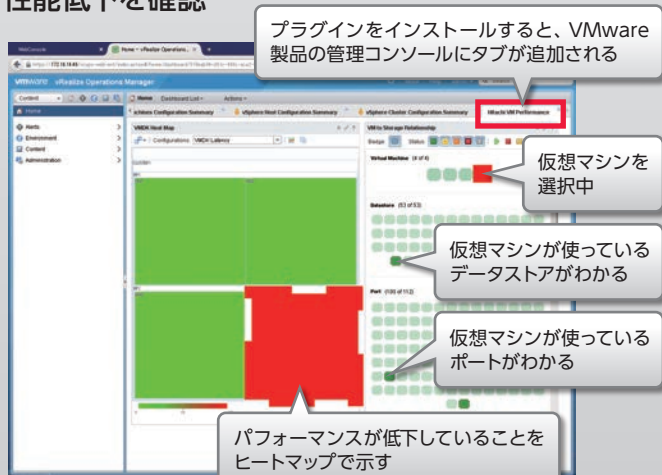
～特徴を知って選択しましょう～

仮想マシンの作成効率を上げる製品には、プラグインのほかに VMware vSphere Virtual Volumes (以降、VVOL) があります。VVOL は、LU 単位のコピー (バックアップ) をストレージ側で実行できたり、ポリシーベースのストレージ管理を実施できたり、比較的ストレージ筐体が多いシステムを管理するのに便利です。一方、プラグインはコスト面で導入しやすく、ストレージ筐体や管理するボリュームの数が少ない、コピー (バックアップ) はサーバで実施する、ポリシーベースのストレージ管理までは必要ない場合に効果的です。

サーバ側でもストレージの性能監視、性能分析

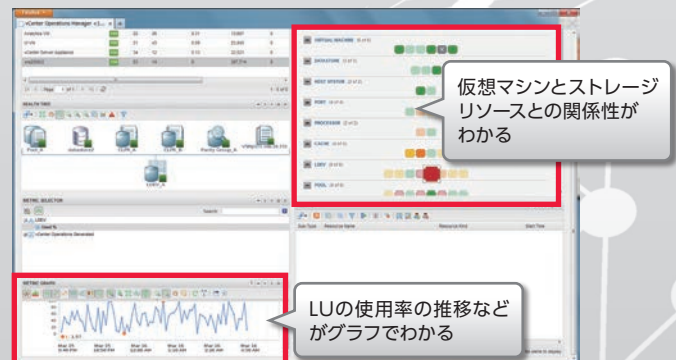
プラグインを利用したストレージの性能監視、性能分析のイメージをご紹介します。

■ひと目でわかるダッシュボードで仮想マシンの性能低下を確認



影響範囲もわかるし
早期に検知できるから
対策も迅速だ

■VMware vRealize Operations と連携してストレージリソースの妥当性を分析



ストレージのボリューム
割り当ての妥当性が
容易に分析できるわ

Hitachi Storage Management Pack for VMware vRealize Operations は、日立のストレージシステム稼働管理 Tuning Manager のご購入を前提としてユーザーに提供しています。

HITACHI は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。VMware、VMware vCenter、VMware vSphere、VMware vRealize Operations は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

●記載の仕様は、製品の改良などのため予告なく変更することがあります。●本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商品に関する詳細・お問い合わせは下記へ

■製品情報サイト

<http://www.hitachi.co.jp/soft/vmware/>

■インターネットでのお問い合わせ

<http://www.hitachi.co.jp/soft/ask/>

■電話でのお問い合わせは HMCC (日立オープンミドルウェア問い合わせセンター)

☎ 0120-55-0504

利用時間 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 (土・日・祝日・弊社休日を除く)

携帯電話、PHS、一部の IP 電話などフリーダイヤルがご利用いただけない場合は、ダイヤルイン：044-850-9293 (通話料金はお客さまのご負担となります)

